

## 主体的に社会の形成に参画する力を育てる社会科学習

公民的分野専門委員長 岐阜市立長森中学校 前島久恵

### 1 はじめに

今年度の授業実践では、3名の先生方が価値を形成するために「合意形成」を目指す授業の実践に取り組んでくださった。授業研究会では、研究委員の先生方の様々な意見を交流し合うことができ、大変有意義な時間をもつことができた。授業実践してくださった先生方や、たくさんの意見やアイデアを出してくださった先生方に感謝の思いを込めて、今年度の研究と次年度の方向性についてまとめていく。

### 2 研究内容

【価値に関する認識を形成する授業】における重点

- ★個人の価値認識を深めるための一つ的手段として、集団での合意形成を図る。
- ★集団での合意形成に必然をうみだすためにはどのような授業ができるのか。
- ★合意形成の先に何を求めるのか。

### 3 授業実践

#### 授業実践1(11/18)

授業者:下呂市立下呂中学校 山北 亮太 教諭  
単元名:「地方自治」~よりよい下呂市を目指して~

##### 【概要】

下呂市が打ち出す第三次総合計画にある「ぬくもり」「つながり」「わくわく」の3つの視点のうち、人口減少を食い止めるために必要な視点はどれかを考え、合意形成を目指していく授業。2~3人の小集団グループで意見を交流していく中で、合意形成を図ることを試みた。

##### 【授業実践1の考察】

○自分の家の状況をもとに課題について考えを述べる生徒がいる等、自分事として考えられているからこそ、他者の意見を聞き入れ、下呂市の将来のためにはどれが大切なのか結論を出すために、それぞれの価値に同意したり対立したりする姿が見られた。  
○『「合意形成の道筋」①考えを話す・聞く②質問・価値の良さ・改善点など③比較検討・考えの見直し④方向を決め出す結論づけ・自己理解』が示され、生徒がそれに沿って小集団交流を進めることができていた。

○学習プリントを活用し、生徒の思考の流れ、変化が一目でわかるような工夫がされていた。毎時間の積み重ねが、本時の生徒の姿に現れていた。

●全体交流では教師がファシリテーター役になれるが、小集団交流の場合、ファシリテーターがいない状況となる。どのように話し合いを進めるのかを明確にしていくとさらによい。

#### 授業実践2(11/21)

授業者:山県市立高富中学校 曾我 幸正 教諭  
山県市立美山中学校 白田 雄太 教諭  
単元名:「地方自治と私たち」~山県市の予算案~

##### 【概要】

美山中の生徒が高富中に来て、2校の生徒と一緒に授業を行った。「どうしたら山県市の人口減少に歯止めをかける予算案になるか」を課題に、それぞれの学校で考えてきた予算案を提案し合った。相手側の主張を聞き入れながら、改善案を考え、最後は一つにまとめる(合意を図る)授業に挑戦した。

##### 【授業実践2の考察】

○それぞれの学校で考えてきた予算案を提案し合い、それを一つにまとめていこうとする過程の中で、自分たちの考えと相手側の考えの相違点に気付き、折り合いをつけていこうとする姿が見られた。また逆に、自分たちがゆずれないものも明確になり、それを主張し合うことで、個人の価値形成につながった。

○同じ山県市民でも、高富と美山では状況が違うことから、相手の状況を理解しながら、違う中学校の生徒と一緒に考えていくことに大きな価値がある。

○合意することの難しさを感じている生徒が多くいた。それでも実際の予算案は一つにまとめられて提案されることから、たくさんの人が様々な状況を考えた上で作り出されているものであることに気付くことができていた。これが主権者教育につながる。

●抽象的な話になってしまうと、浅いものになってしまうが、どの立場の人のことを考え、どの政策のことを言っているのか等、具体的にしようとするほど、時間が必要となる。どのように展開していくとよいのか検討していく必要がある。

### 授業実践3(12/19)

授業者:大垣市・安八郡安八町組合立東安中学校  
鶴飼 貴斗 教諭

単元名:「私たちの暮らしと経済」  
～トウアンマートのサービスを考える～

#### 【概要】

東安地区に出店する架空のコンビニ(トウアンマート)が長く経営し続けるために必要だと考えられるサービスを選び、小集団で合意形成を図る授業。「労働者」「消費者」「経営者」の3つの立場を視点とし、お互いの考えを交流していった。

#### 【授業実践3の考察】

○小集団の中で、仲間の意見に対して、自分の意見と比較しながら折り合いをつけて考えようとする生徒の姿が素晴らしいものだった。

○架空の事案を題材に、視点を明確にして考えさせる活動を通して、経営者、消費者、労働者のそれぞれの立場を考えながら合意していこうとする姿が見られた。

○小集団の中でのファシリテーター役の生徒が論点を整理したり、相違点を明確にしたりしながら話し合いを進めることができていた。学校の研究との関わりで、1年生の頃から鍛えられている姿が本時の中にも現れていた。

●共通の価値をもとに話し合いを進めていくこと、今回で言う「長く愛される店とはどんな店なのか」を共通理解してした上で話し合いを進めていくとさらによい。

●架空の事案だからこそ、自分はどのような立場(例えば「幹部」として決定する立場)で結論を出せばよいのか、目的は何なのか、どのような視点があるのか、条件設定を明確にすることで必然性のある話し合いにつながる。

#### 4 研究内容のまとめと来年度の研究の方向性

「集団による合意形成」を図るための要件

##### ①「自分ごと」として取り組める課題設定

(立場・条件・状況等の明確化)

##### ②多様な立場や意見の存在

(意見や価値の違いの分かりやすさ)

##### ③合意形成のプロセスを明確にして生徒と共有する

(意見共有→対立点整理→妥協点探し→合意形成)

##### ④生徒の討議スキルを育成する

(端的な説明、要約、問い返しといった情報活用能力・言語能力に基づく対話の質)

##### ⑤話し合い支援と評価

(ファシリテーターとしての教師の役割と討議のプロセスを生徒と評価)

→合意形成を図ることを通して、上記のような過程を経て、自分以外の人の価値を知り、相互理解を踏まえた上で、個人の価値を形成していく。その際、「自分事」として捉え、自己のアイデンティティを自覚させていく。

#### 合意形成に至る場面での指導のポイント

・対立点の整理(共通点・相違点は何か、焦点化して議論すべき内容は何か)

・妥協点・着地点を探す議論の方向付け(相手の立場から自己の意見を見直せるか、新たな解決策があるか、残り時間でどこまでの話し合いを目指すか)

・社会的な解決を目指した再討議の促し(互いの意見や価値観の差異を乗り越えるにはどうしたらよいか)

#### 【来年度に向けて】

○「合意」が必要な題材なのかを十分に吟味する。

○小集団での合意形成を図ろうとする場合、状況を統一することが難しいため、小集団での合意形成の役割と、全体での合意形成の役割を明確にし、小集団での合意形成を意図的に活用するようにする。

○合意形成を締めくくる場面のあり方を考察する。集団での討議の価値を確かめ合う、新たな問いに向き合う、個人での価値形成をする等、様々な出口が考えられるため、この点について来年度実践を重ねていきたい。

#### 5 おわりに

今年度の公的的分野では、個人の価値形成のための「集団での合意形成」に重点を置き、実践していただいた。3回の授業研究会で、地方自治の学習では、自分の住む地域の題材を通して、小集団(班)での合意形成(優先順位をつける)と、学級での合意形成(案を一つにまとめる)の授業を、経済の学習では、架空の事案を題材に、小集団での合意形成(3つに絞る)の授業を実践していただいた。どの授業も授業者の先生が、意図をもって挑戦していただき、それぞれが違う題材、方法で進めてくださったことで、実りの多い研究会を進めることができた。集団での合意形成の授業について、大きく前進できた令和7年度の公的的分野だった。私自身も、たくさんのことを学ばせていただいた。

今年度の授業研究委員の先生方に感謝の気持ちを込めて、今年度の成果を美濃地区大会ではっきりといただけるように支えていきたい。